

2018年12月期通期決算説明会

主な質疑応答の要約

2019年2月12日に開催しました 2018年12月通期決算説明会における主な質疑応答の要約を掲載します。

【Q1】

2018年決算においてどの連結子会社で赤字が発生しているかを教えてください。

【A1】

海外に関しては、イギリスでグローバルプラットフォームの開発を行っており、損失が拡大しています。国内に関しては、2018年4月に分割を実施し子会社となった CookpadTV 株式会社について投資が先行し、赤字が発生しています。

【Q2】

海外事業について、今期の赤字の見込み、黒字化のタイミングを教えてください。

【A2】

当面はグローバルプラットフォームの開発に注力していきたいと考えており、黒字化の目途はお伝えすることが難しい状況です。将来の業績予想を発表していませんので、具体的な金額はお伝えできませんが、採用が加速することで費用が増加していくと考えています。

【Q3】

海外事業について、どのようにマネタイズする見込みなのかを教えてください。

【A3】

海外は全世界で一つの共通プロダクトを展開しており、基本的に一つの開発チームが25言語分を開発しています。海外事業は、現在、世界中のニーズに合わせるためにどういったプロダクトにすべきかを模索している段階ですので、まずはサービス開発を注力し基盤創りを行った後、どうやってマネタイズするのかを検討するという順番で進めていきたいと考えています。

【Q4】

海外事業のマネタイズ方法が現段階でイメージもできていないというのは、非常に難しいと考えますが、何か計画を見せてもらえませんか？

【A4】

いいサービスを使っていただくということが大前提で、その中でマネタイズをするという形を考えるべきだと我々は考えています。従って、順番としては先ずサービス開発で、日々の課題を解決するサービスを作り、その中でどこに有料化のトリガーをひくかを後から考えたいと思っています。

【Q5】

投資フェーズの10年間は赤字になったとしても投資を実行するのか、若しくは最低限赤字が出ないようにコントロールしていくのか、経営の考え方を教えてください。

【A5】

当社はキャッシュ及びキャッシュフローを見て経営を行っており、PLの赤字/黒字は強く意識していません。従って、将来的に積極的に投資した結果として、PL赤字になるという可能性は十分に考えられます。

【Q6】

YouTubeの料理動画は多くのサブスクライバーを集めています。今後YouTubeを活用する計画があるか教えてください。

【A6】

現状、YouTubeについての方針は特に定めていません。料理動画は世界中で沢山視聴されていますが、料理動画を視聴することと料理動画を基に実際に料理を作ることには大きなギャップがあると我々は考えています。当社グループでは、CookpadTV株主会社を中心に、料理動画を通じてどのように料理の作り手を増やすことに繋げるのかという課題に挑戦しており、その中の選択肢として今後YouTubeを活用する可能性はあります。

【Q7】

現在の時価総額ではEV (Enterprise Value)がゼロですが、それについてどう考えているのか教えてください。

【A7】

EVはゼロに近いのかもしれませんが、当社は現在長期的な企業価値向上のための投資フェーズと位置付けており、毎日の料理を楽しむにするという当社のミッションを達成するために今後も必要な投資を続けていくというスタンスです。